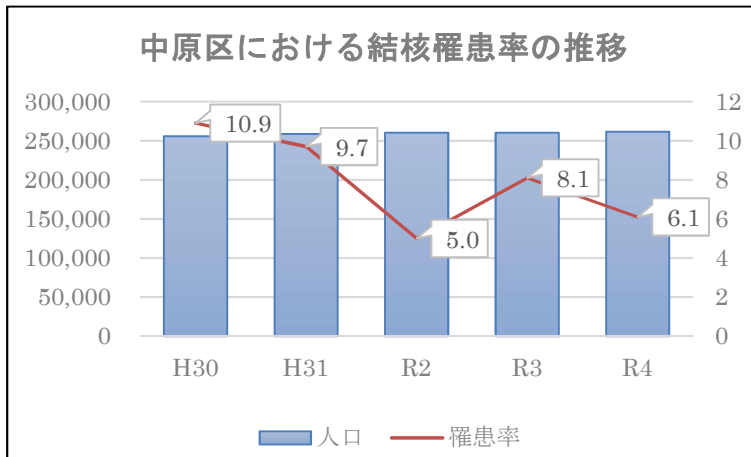


結核は過去の病気ではありません！

中原区における結核の動向

中原区での結核罹患率（人口10万人対）はここ数年減少しています。

結核は過去の病気と思われがちですが、発見や診断の遅れにより、重症化してから診断される場合もあり、入院や治療が長引いたり、家族や職場での感染の拡大が心配される事例もあります。



【令和4年度中原区結核発生状況】

(カッコ内は前年度の人数)

新規結核登録患者数 16名(21)

うち喀痰塗抹陽性(※注1) 4名(6)

※注1: 結核病棟への入院を要する状態

別掲)潜在性結核感染症(※注2) 6名(4)

※注2: 感染はしているが発病はしていない患者

感染症法での定期健診と報告について

感染症法では、結核の発症により二次感染をおこす危険性が高い職業や集団感染の恐れがある施設等について定期の健康診断の実施とその報告を義務付けています。

咳や痰、発熱など結核の症状があっても、コロナ禍においてはすぐに診断につながらないケースがありました。

また、高齢者では結核を発症しても、典型的な症状が出ない場合があります。

早期発見・早期治療のため、

年1回の職場・施設等での定期健診を必ず受けましょう。



早期発見・
早期治療が
大切です！

～結核への正しい理解とまん延防止のため

日頃の健康管理・健康診断の実施及び報告にご協力下さい～